

# W杯で訪れる人に笑顔

## ポスター撮影会始まる

### 民族衣装の留学生ら参加

グスタジアム  
ウスタジウム

サッカーのワールドカップ(W杯)で海外などから神戸を訪れる人へのもてなしの心を笑顔で伝えようと、神戸市民の笑顔のポスター「Merry in Kobe」の撮影会が十九日、神戸市兵庫区の「神戸ウイングスタジアム」で始まった。子供からお年よりまで市民約二百人を写真に収め、今年三月から四月にかけてポスター展を開く。

ポスター展は2002年ワールドカップ神戸開催推進委員会が企画し、東京在住のアートディレクター、水谷孝次さん(五十)がプロデュースした。水谷さんは昨年、「神戸21世紀・復興記念事業」の一環として女性の笑顔を集めたポスター展を開いている。この日の撮影会は神戸



「日本対チュニジア戦は、勝ち負けにこだわらず両国の出会いとして大切にしたい」と話している。撮影会は今後、数回行

在任のチュニジア人とスウェーデン人らがモデルとなった。予選で日本との対戦が決定しているチュニジアからの留学生、イリエス・ベツラミンさん(三)は民族衣装をまとって会場に姿を見せた。

神戸在住の外国人らも民族衣装を身につけ、ポスターのモデルを務めた

われ、少年サッカー選手や大会を支える地元交番の警察官、市民ボランティアらをモデルに笑顔の撮影。それぞれが自分にとってのMerry(幸せ)を書き込んだメッセージ入りのポスターを製作する。ポスターは三月二十九日から四月七日まで神戸市中央区のデュオこつべで展示するほか、W杯期間中は神戸市内の電車や地下鉄の駅などに展示する。